



◇ お住まいの空気の数 ◇

新型コロナウイルスの影響でのイベント中止や学校の休校、宿泊施設のキャンセル、外出自粛、テレワーク（在宅勤務）や、時間差通勤に飲食店の廃業・休業など、私達の生活状態は、大きく変化したことを実感します。

特に外出自粛から自宅滞在時間が増えた事により、住宅の快適性に注目したり、趣味に凝るようになったと云われます。小さなお子様が居る世帯では、特にゲーム機器などが売れていると云う事です。

このような状態が、いつまで続くのか分からない中で住宅内でのウィルス対策と「自宅滞在時間を快適に」という観点から『空気清浄機』の購入を検討されている方も多いとされます。

数年前から注目されるようになった『PM2.5』による大気汚染に関する健康被害から様々な空気清浄機が販売されております。

コロナ対策として購入を検討し始めた方にとっては、種類が多過ぎて何を選んだら良いか分からないという方も多いかと思います。

本紙では空気清浄機について注目して調査研究をしてみました。

◇ 空気清浄機の選び方 ◇

◆各メーカーの豊富なラインナップ

以前は、パナソニック・ダイキン・シャープなど独自の技術で空気を清浄化、脱臭効果なども得られる機器が主流でした。

最近では掃除機で有名なダイソン、更に様々な商品を扱うアイリスオーヤマ、高性能を謳った外国製の空気清浄機と幅広い商品があります。

これらの中から選択するポイントとしては、『①捕集性能：どれくらい小さなものをどれほど取れるか』『②処理風量：どれくらいの空気をキレイに出来るか』の2点が重要となります。

① 捕集性能

空気清浄機である以上、空気をキレイにするための性能はとても重要です。ただし重要なのは『どうやってキレイにするか』であり、一般的にホコリ等をこし取るフィルター、静電気を利用して吸着する電子式に分かれます。

フィルタータイプはホコリなどが溜まると抵抗となり、処理できる量が減少するため、定期的にフィルターの買い替えが必要で費用が掛かります。

一方、電子式は静電気で吸着するので、再利用が可能なタイプであれば洗う事で再利用が可能となります。

② 処理風量

処理風量で重要なのは『どれくらいの空気量を、どれくらいの時間で』キレイに出来るかです。

捕集性能は高くとも処理できる空気量が極端に少ないと意味がありません。本来は大風量タイプが良いですが、風量が大きくなると『稼働音』も大きくなり、消費電力も大きくなりますので注意が必要です。

◇ 理想的な空気清浄とは？ ◇

空気清浄機の選び方でお伝えしている通り、『捕集性能』と『処理風量』のバランスがより良い機器が理想的です。

『ファースの家』における空気清浄機『クリーンファンネル』は、どのような価値と効果が得られるかをお伝えします。

『クリーンファンネル』は、『ファースの家』の高気密性と空気循環の相性が良く、家中の空気を何度も循環させて綺麗に出来ます。

捕集性能は、㈱トルネックス（製造先）の自社試験の調査結果からウィルスサイズ『0.08 マイクロメートルの粉塵』を、処理風量が『900立方メートル※1時間あたり』の時に『80%』以上の性能があると実証されました。

実際の数値的なところはイメージし難い所ですが、上記の性能値を他メーカーの空気清浄機と比べる事で、性能の違いをご理解して頂けます。

過去の調査データを参考にすると空気清浄機は、1家に2台、リビングと寝室に置かれる事が多いというデータがあります。しかし、リビングと寝室の空気は清浄出来てもその他の部屋に及びません。

コロナ対策で導入する空気清浄機としては、不安を感じてしまいます。

また、三密対策として国は、十分な換気を推奨しております。しかし換気と云っても戸建住宅で窓を開けた際の換気、窓の配置や大きさ、更に外気風で換気量が建物ごとに大きく異なります。

『ファースの家』に、『クリーンファンネル』を設置した場合『空気循環＋空気清浄』で、窓を開けて換気しているのと同程度のコロナ対策が実践できています。「ファース工法・クリーンファンネル」で検索して確認して下さい。

（著：研究開発室 富田武美）